



2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日

上場会社名 ワタベウェディング株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4696 URL <https://www.watabe-wedding.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 花房 伸晃
 問合せ先責任者 (役職名) グループ管理本部長 (氏名) 鈴木 眞治 TEL 075-778-4111
 四半期報告書提出予定日 2019年11月1日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	24,570	8.7	△73	—	117	—	46	—
2019年3月期第2四半期	22,603	6.1	△453	—	△340	—	△537	—

(注) 包括利益 2019年12月期第2四半期 △309百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 △432百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	4.71	—
2019年3月期第2四半期	△54.21	—

(注) 2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。この結果、従来より決算期が12月31日であった一部の連結子会社については、前第2四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年6月30日までの損益を基礎として連結していましたが、当第2四半期連結累計期間は2019年4月1日から2019年9月30日までの損益を連結しております。なお、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年12月期第2四半期	24,703	10,267	41.6
2019年3月期	24,436	10,577	43.3

(参考) 自己資本 2019年12月期第2四半期 10,266百万円 2019年3月期 10,570百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
 2019年12月期の期末配当予想額は未定としております。

3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年4月1日～2019年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,000	—	1,150	—	1,200	—	700	—	70.64

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、決算期変更の経過期間となる当連結会計年度は2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月決算となりますので、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期2Q	9,909,400株	2019年3月期	9,909,400株
② 期末自己株式数	2019年12月期2Q	626株	2019年3月期	626株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期2Q	9,908,774株	2019年3月期2Q	9,908,878株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料等に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は2019年11月1日に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における運営状況と経営成績について、「リゾート挙式」におきましては、前期にオープンしたハワイの「コオリナ・チャペル・プレイス・オブ・ジョイ」、沖縄の「古宇利島 空と海の教会」が好調に稼働いたしました。さらに、多様化する顧客ニーズを汲み取るコンサルティング型の営業力強化や、全国の直営店舗の再編を実行し、集客数・成約率が向上するなど、各営業施策が着実に収益に貢献する結果となりました。また、事業成長戦略の強化策として、旅行会社のコンパクトシーク社をグループ化したことによるリゾート挙式向けの当社オリジナル旅行商品の販売や、リゾート挙式に特化した衣裳の新ブランドを発表し、下期販売開始に向けての広告展開を開始するなど、当社ならではの独自性の高い商品ラインナップを揃え、競合他社との差別化を図りました。

また、近年新たなマーケットとして注目される「フォトウェディング」のニーズに応えるべく、4月に「京都フォトスタジオ」を新たにオープン、9月にはフォト専用のWEBサイト「アッシャーズ・フォト」をオープンするなど、国内外で展開する当社フォトサービスの利用拡大を図りました。

事業成長戦略の一つである海外展開においては、新たなリゾートエリアとして急成長が期待される、ベトナム・ダナンでのリゾート挙式サービスが本格稼働し好調に推移しております。また、中国のウェディング市場におけるリゾート挙式ニーズの高まりを受け、8月に中国・北京に新店舗をオープンし、海外顧客向けの販売網を拡充いたしました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、ホテル雅叙園東京では、日本美あふれる唯一無二の空間である施設の特徴を活かしたブランド戦略を国内外へ向け積極的に展開し、婚礼、宿泊共に堅調に推移いたしました。7月には、一部の和客室を日本の伝統工芸要素を織り交ぜたデザインへと改装し、インバウンド顧客の利用率向上を目指し、グローバルな受け入れ体制を整えました。

メルパルクでは、宿泊において、市場動向を加味した価格コントロールを都度実施したことにより、高い稼働率の維持並びに客室単価が向上いたしました。また、前期よりメルパルクのフォト事業をワタベウェディングの直営店としてリニューアルを行うなどサービス向上に努めた結果、フォトウェディングの実施組数の増加や1組当たり単価が向上するなど、収益に寄与いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高24,570百万円（前年同四半期比8.7%増）、営業損失73百万円（前年同四半期営業損失453百万円）、経常利益117百万円（前年同四半期経常損失340百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益46百万円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失537百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント間の取引消去後となっております。

① リゾート挙式

新施設や販売戦略における施策効果などにより、挙式組数の増加及び1組当たり単価が向上し、売上高は10,908百万円（前年同四半期比15.5%増）となりました。利益面につきましては、新施設を中心としたプロモーション強化や成長事業推進などに伴う販売管理費が増加したものの、売上高向上により、セグメント損失は264百万円（前年同四半期セグメント損失673百万円）となりました。

② ホテル・国内挙式

積極的なブランド価値訴求や前期に実施したリノベーションなどの効果により、売上高は13,662百万円（前年同四半期比3.8%増）となりました。利益面につきましては、原価率が上昇したことなどにより、セグメント利益は144百万円（前年同四半期比30.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ394百万円減少し、8,226百万円となりました。これは主に流動資産のその他が増加した一方で、現金及び預金が減少したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ661百万円増加し、16,477百万円となりました。これは主に有形固定資産のその他及び無形固定資産のその他の増加によるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ267百万円増加し、24,703百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ438百万円増加し、10,875百万円となりました。これは主に短期借入金及び前受金が増加した一方で、流動負債のその他が減少したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ138百万円増加し、3,560百万円となりました。これは主に固定負債のその他の増加によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ576百万円増加し、14,435百万円となりました。

純資産残高は、前連結会計年度末に比べ309百万円減少し、10,267百万円となりました。これは主に為替換算調整勘定の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが382百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが1,567百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが645百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は、4,302百万円（前年同四半期は5,929百万円）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は382百万円（前年同四半期比997.7%増）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益65百万円のほか、主に減価償却費858百万円、前受金の増加額565百万円、未払金の減少額466百万円等があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は1,567百万円（前年同四半期比1.6%増）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出1,297百万円等があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果獲得した資金は645百万円（前年同四半期比5.1%減）となりました。これは、長期借入金の返済による支出200百万円等があったものの、短期借入金の純増加額1,000百万円があったことによるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、業績は概ね計画通り推移していることから、2019年7月31日発表の業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,072	4,307
売掛金	1,665	1,659
商品	187	218
原材料及び貯蔵品	403	446
その他	1,307	1,611
貸倒引当金	△15	△16
流動資産合計	8,620	8,226
固定資産		
有形固定資産		
貸衣裳(純額)	104	126
建物及び構築物(純額)	6,225	6,179
器具備品(純額)	1,223	1,225
土地	1,719	1,675
その他(純額)	288	823
有形固定資産合計	9,561	10,030
無形固定資産		
のれん	672	645
その他	970	1,246
無形固定資産合計	1,642	1,891
投資その他の資産		
差入保証金	2,697	2,693
その他	1,925	1,865
貸倒引当金	△11	△4
投資その他の資産合計	4,611	4,555
固定資産合計	15,815	16,477
資産合計	24,436	24,703

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,986	1,742
短期借入金	1,200	2,200
前受金	3,231	3,799
賞与引当金	782	700
その他	3,237	2,432
流動負債合計	10,437	10,875
固定負債		
長期借入金	1,000	800
退職給付に係る負債	1,280	1,336
資産除去債務	880	872
その他	260	551
固定負債合計	3,421	3,560
負債合計	13,858	14,435
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,051	4,047
利益剰余金	2,735	2,687
自己株式	△0	△0
株主資本合計	10,962	10,910
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	23	23
繰延ヘッジ損益	10	△22
土地再評価差額金	△773	△681
為替換算調整勘定	416	108
退職給付に係る調整累計額	△68	△73
その他の包括利益累計額合計	△392	△644
非支配株主持分	7	1
純資産合計	10,577	10,267
負債純資産合計	24,436	24,703

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	22,603	24,570
売上原価	7,282	8,037
売上総利益	15,321	16,532
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	5,175	5,483
賞与引当金繰入額	586	609
退職給付費用	100	101
賃借料	2,623	2,497
その他	7,287	7,912
販売費及び一般管理費合計	15,774	16,605
営業損失(△)	△453	△73
営業外収益		
為替差益	118	145
その他	53	61
営業外収益合計	171	207
営業外費用		
支払利息	6	6
持分法による投資損失	—	3
休止施設費用	48	—
その他	3	7
営業外費用合計	58	16
経常利益又は経常損失(△)	△340	117
特別利益		
固定資産売却益	2	1
受取補償金	13	—
特別利益合計	16	1
特別損失		
固定資産除売却損	5	51
施設店舗整理損	158	—
その他	25	2
特別損失合計	189	53
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△513	65
法人税等	23	30
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△537	35
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△11
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△537	46

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△537	35
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	0
繰延ヘッジ損益	88	△32
為替換算調整勘定	5	△306
退職給付に係る調整額	6	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	3	△1
その他の包括利益合計	105	△344
四半期包括利益	△432	△309
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△432	△297
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△11

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△513	65
減価償却費	710	858
のれん償却額	31	35
施設店舗整理損	158	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△71	△84
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	44	51
受取利息及び受取配当金	△7	△5
支払利息	6	6
為替差損益(△は益)	△50	△156
売上債権の増減額(△は増加)	100	15
たな卸資産の増減額(△は増加)	△34	△62
前払費用の増減額(△は増加)	△168	△68
仕入債務の増減額(△は減少)	△139	△254
未払金の増減額(△は減少)	△211	△466
前受金の増減額(△は減少)	453	565
その他	△181	156
小計	128	657
利息及び配当金の受取額	6	5
利息の支払額	△1	△1
法人税等の支払額	△324	△306
法人税等の還付額	225	26
営業活動によるキャッシュ・フロー	34	382
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,319	△1,297
有形固定資産の売却による収入	3	9
無形固定資産の取得による支出	△218	△300
差入保証金の差入による支出	△38	△15
差入保証金の回収による収入	31	12
連結の範囲の変更を伴う関係会社株式の取得による収入	55	—
その他	△57	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,542	△1,567
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	950	1,000
長期借入金の返済による支出	△200	△200
配当金の支払額	△49	△49
連結の範囲の変更を伴わない関係会社株式の取得による支出	△13	—
その他	△7	△105
財務活動によるキャッシュ・フロー	679	645
現金及び現金同等物に係る換算差額	72	△115
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△755	△656
現金及び現金同等物の期首残高	6,685	5,067
決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	△108
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,929	4,302

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当社グループのIFRS適用子会社は、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」(2016年1月公表)(以下、IFRS第16号)を適用しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間における四半期連結貸借対照表は、有形固定資産のその他(純額)が548百万円、流動負債のその他が159百万円、固定負債のその他が299百万円それぞれ増加し、投資その他の資産のその他が89百万円減少しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(連結決算日の変更に関する事項)

2019年6月27日に開催された定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受けまして、当連結会計年度より決算期を3月31日から12月31日に変更いたしました。変更の理由は、当社グループの決算期を統一することで、予算編成や業績管理等、グローバルな事業運営の効率化を図り、グループ一体となった経営を推進するためであります。

これに伴い、決算期変更の経過期間となる当連結会計年度は2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月決算となります。

また、従来より決算期が12月31日であった一部の連結子会社については、前第2四半期連結累計期間は2018年1月1日から2018年6月30日までの損益を基礎として連結しておりましたが、当第2四半期連結累計期間は2019年4月1日から2019年9月30日までの損益を連結しております。なお、当該連結子会社の2019年1月1日から2019年3月31日までの損益については、利益剰余金の増減として調整し、キャッシュ・フローについては、決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額で調整しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	9,443	13,160	22,603	—	22,603
セグメント間の内部売上 高又は振替高	3,767	67	3,834	△3,834	—
計	13,210	13,228	26,438	△3,834	22,603
セグメント利益又は損失 (△)	△673	207	△466	13	△453

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額13百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・ 国内挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	10,908	13,662	24,570	—	24,570
セグメント間の内部売上 高又は振替高	4,344	130	4,474	△4,474	—
計	15,252	13,792	29,044	△4,474	24,570
セグメント利益又は損失 (△)	△264	144	△119	46	△73

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額46百万円は、主にセグメント間取引消去と未実現利益消去によるものであります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。